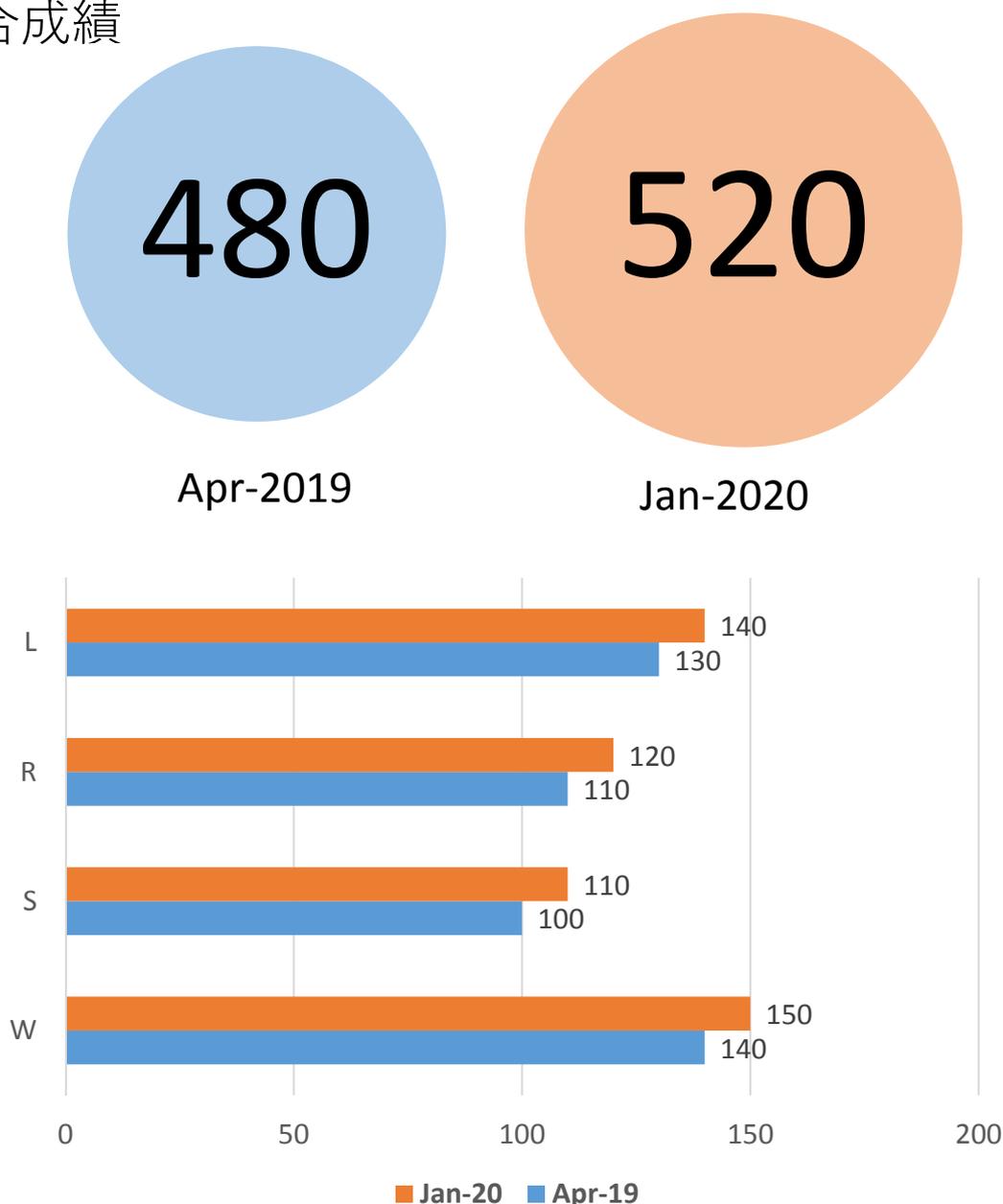


学校教育学科

総括

リーディングとライティング力を主として強化することを目的としてシラバスを作成した。ライティングではCEFR B1レベルのパフォーマンステストを初回授業と期末直前テストで実施、4段階評価を行った。講師の一方的な添削に限らず、学生同士の添削、内容のフィードバックを行い、主体的に学ぶ環境を心掛けた。結果として、9割の学生が1段もしくは2段階以上、評価を上げることができた。GTECスコアとしても、すべての技能で平均点が向上し、ライティングでは7割以上がCEFR B1以上を達成した。

総合成績



学校教育学科 Aクラス 担当：

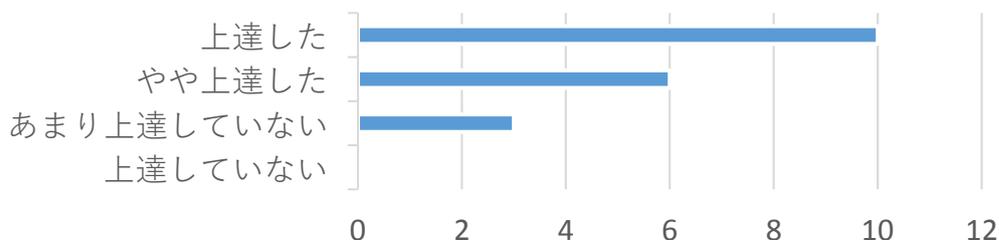
成果

後期はスピーキング力の強化を主目的として、英語での発話を促すペアワークやアクティビティを多く取り入れた。さらに毎回座席を替え、馴れ合いではない環境で、集中力を高めてもらおう試みをしたところ前期より自主性がみられ、講師が一方向的に説明するのではなく、学生同士で教え合い解決に導ける学び合いの空気が生まれたと感じることができた。結果として、S・Wのアウトプット能力のスコアも向上したことは大きな成果である。

課題

スピーキングテストでは間違えても積極的に会話を続ける姿勢が見られ、当初と比べると意識の変化を感じることができたものの、通常授業では積極性に欠ける部分もあった。また、後期では時間外学修時間も伸び悩んだため、意欲を引き出す工夫が必要である。

アンケート結果（英語力の自己評価）



クラス成績

